

(三) 教材精選の手順
 (1) 前後の学年の目標との関連で当該学年の特性を考え、学年の目標を明確にする。

表1 学年目標の重点

| 領域 学年 | 聞くこと 話すこと | 読むこと | | 書くこと | |
|----------|--------------|---------------|------------|---------------|---------------|
| | | 読解 | 読書 | 作文 | 書写 |
| 1 | 学級の中で… | 事柄のだいたいを… | 興味を持って… | 簡単な文章を… | ていねいに… |
| 2 | 事柄の順序や考えを… | 順序や様子の移り変わりを… | 進んで… | 順序よく… | 正しく… |
| 3 | 要点を… | 要点を… | いろいろな読み物を… | 事柄をまとめて… | 点面に注意して… |
| 4 | 中心点を… | 段落相互の関係を… | 読む量を… | 段落の構成を… | 読みやすく正しく… |
| 5 | 状況を… | 主題や要旨を… | 選択して… | 主題や要旨のはっきりした… | 整えて… |
| 6 | 目的に応じて… | 目的や種類や形態に応じて… | 適切な読み物を… | 内容にふさわしい文章を… | 目的に応じて正しく整えて… |

(2) 学年目標の重点を中心に置き、指導要領に示されている指導事項を分析し重点化を図る。
 その際、児童・生徒の実態や言語環境の実態等を考慮するとともに、指導事項の系統と関連を抑えるようにする。(表2)
 (3) 更に、指導要領の「内容の取り扱い」(指導時数や題材選定の観点等が述べられている)や教科書教材を検討して教科書教材の指導のねらいを明確にする。(表3)
 (4) 指導事項と教材の指導のねらいの検討の結果から、教材の取り扱いの軽重や補充すべき教材を検討する。

表3 指導事項と教材関連表

| 指導事項 | (1) 読解 | | (2) 言葉 | (3) 読書 |
|------|----------|----------------|------------|-----------|
| | オ、語の意味を… | エ、語のつながりや… | ウ、語のつながりや… | カ、読書を楽しむ… |
| 月 | 4 | 5 | 6 | |
| 題材 | 白いぼうし | 声を出さなくみねむりについて | あじさい | 海を見に行く |
| 文種 | 物語 | 説明 | 詩 | |
| 時数 | 8 | 10 | 5 | |

表2 指導事項の重点(読むこと)(例)

| | | |
|----|---|---|
| 1年 | <ul style="list-style-type: none"> 書いてあること()を()しながら読むことができる 書いてあること()の()について読む 拾い読みでなく、語や文として読む △わからない文字や語句に注意する | <ul style="list-style-type: none"> やさしい読み物に()を持つ ◎文章に書かれていること()の中で興味のあるところを見つけ出す ○場面の様子を想像しながら読む |
| 2年 | <ul style="list-style-type: none"> 書いてある事柄の()を理解しながら読むことができる ◎時間的な順序や場面の移り変わりを考えながら読む ○表現に即して読み取ろうとする △わからない文字や語句を見つけた | <ul style="list-style-type: none"> やさしい読み物を()読む ◎好きなところや興味を持ったところを見分けたり人に伝えたりする ○人物の性格や場面の様子を想像しながら読む |
| 3年 | <ul style="list-style-type: none"> ()の()を正しく読み取ることができる | <ul style="list-style-type: none"> ()の()を読む |

() 学年目標 ◎ 中心技能 ○ 中心技能を支えるもの △ 語句関係

二、教材精選の実践例

喜多方市立第一中学校

教育の現代化という主張とかわつて、国語科でも探究し、創造する態度の育成や転移する学力の形成をねらって、「教材の精選」が考えられる。本校においては、いかに教材自体の解釈を深めて行くかということが問題で、そのことに努力しているのが現状である。具体的には教材の選択をすることであり、教材の構造を図り、指導事項の精選をすることであると考えられる。そんな心構えで教材を読んでみた。

- (一) 単元名 「論理と構成」
- (二) 単元の構成

。単元の前置き・学習の
 主な内容
 1 文章の論理的な構成を読み取る
 (一) 科学と抽象 (二) 機械との共存
 〈文法III〉(一) 文章の組み立て
 2 根拠に基づいて正確に書く
 (一) わが城山町
 〈作文の練習―事実と意見〉

- (三) 単元の指導に当たって

(1) この単元は「文章の論理的な構成を読み取る」と「根拠に基づいて正確に書く」とを重点とする単元である。ここでは特に読むことの方を考えるが、この場合二つの教材がある。そこで(一)「機械と共存」に重点をおいて指導する。
 (2) 教材の持つ内容的価値についても

| 論の展開 | 構成 |
|---|--|
| ① 機械と人間にかかわりのある問題が多い。 一 公害・交通問題。 (つまり) 現代の社会は「高度の文明・好ましくない矛盾」(従って) 機械と人間との関係を根本的に考え直してみること。 | ① 問題の所在を指摘した段落。「高度の文明」↓ ② ③ そして2に。 ④ 「矛盾」(従って) ↓ 3の前半に。 「考え直して」↓ ④ ↓ 3の |

- (2) ① 論理的な組み立てを読み取る。
- ② 論の展開と構成……①のみ

- (1) 基本的事項
- (四) 主教材「機械との共存」について

① 機械と人間の共存する現代社会の問題点を理解するとともに、この若くて粗暴な機械文明を、平和で思慮深い文明に変えて行くことを目指すべきである、という論旨を理解する。
 (3) 作文教材との関連で論旨の展開の筋道をしっかりと読み取ると同時にどんな事実を論拠として述べられているかを読み取るように指導する。
 (4) 指導方法に工夫をこらすようにする。生徒一人一人が学習活動できるように学習の作業化を考えて行くようにする。